

# 令和5年度神奈川県立鶴見支援学校

## 第2回学校運営協議会開催結果

|            |  |
|------------|--|
| 開催日時       | 令和5年10月18日(水)  |
| 開催会場       | 鶴見支援学校   |
| 参加者        | 7名(欠席3名)   |
| 会議資料       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回開催要項</li> <li>○令和5年度学校設置部会</li> <li>○令和5年度学校評価(中間評価)</li> <li>○パワーポイント資料(本日の流れ、各グループ・学部取組内容)</li> </ul>   |
| 委員からの意見等概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○校長挨拶 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標、計画に対しての成果の報告を行っていく。学校設置部会の方にも参加いただき、皆様の忌憚のないご意見を頂戴し、後半の部分で新しい視点の中でさらに教育活動を進めていきたいと考えている。</li> </ul> </li> <li>○参加者より各自挨拶</li> <li>&lt;学校評価部会&gt;</li> <li>○概要を副校長 具体的な取り組みを各グループ学部より説明</li> <li>○各委員からの質問、意見等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「身につけたい力」は重要で、日々の活動の中で実践しているのは大事なこと。将来どうつながっていくのか、活動を達成することも大事だが、それを含めた将来の見通し、自己表現の発展性も教員が共有していけると良い。</li> <li>・横浜市が時間割の改革を行っている。各学校の特色に基づいて型にはめずに柔軟に対応をしていくといった話が出ている。生徒の学習能力向上もあるが先生の残業を減らすこともある。生徒優先のところはあるが、先生方が余裕を持って指導できる体制がとれるよう、今までと違う形を考え、型にはまらず柔軟に考えていけると良い。</li> <li>・教育水準の維持、向上、先生たちが子供たちの指導に集中できる環境づくりを、教育委員会や文科でも動いている。東京都は保護者に改革をしてくといった旨のプリントを出している。校長会でも考えていこうと声が出ている。</li> <li>・教育現場では自立と社会参加が最終的に目指すところ。特例子会社では、小学部では最低限必要なこと、中学部で身につけていきたいことを、項目をかなり細かく絞ってやっている。本人が身につけたい力、会社側から見た身につけて欲しい力には違いがあるといった観点からも指導に活かしていただければ。</li> <li>・身につけたい力について、キャリア・パスポートの中にも入れると良い。具体的に示すと保護者もとらえやすく教員も指導しやすい。</li> <li>・神奈川県の企業でまとめた資料活用してほしい。神奈川県の就職率はあまり高くない。ここ1～2年で大きな波が来ると思っている。企業も採用を積極的に行うと思う。家庭で悩まれていること、社会参加のことを含めて企業側からアドバイスし、不安を取り除けるようにしていきたい。</li> <li>・事業所においては、キャリア・パスポートとは言わないが、写真で提示し、スケジュールで動いてもらっている。学校と一緒にやっていてやりやすい。リハのある事業所なので、型にはまった個別指導計画書、具体的な内容に大変な思いをしている。普段やってくれている課題や掃除、型付けなど、学校のやり方に準じて行っている。いずれグループホーム等で生活するようになって、一人でやっていけるように支援をしている。保護者の方には、生きていくための力と話している。</li> <li>・いろいろな生徒がいて、地域の人や先生方が可能性を十分に輝かせていただきより良い将来があるといいと思っている。</li> <li>・技術精度が変わってきているので、就労の在り方も考えないといけない。親の立場から身につけてほしいと思う事、子どもがやりたいと言うのに違う仕事を押し付けないように。親の希望を押し付けてしまうことでミスマッチが起きている。親御さんを含めた進路の意見交換会は大事だと思う。</li> <li>・全てに共通することとして、誰のためにやるのかという視点を忘れてはならない。生徒のため、生徒の立場に立った支援。支援学校だけでなく普通科の学校もそういうジレン</li> </ul> </li> </ul> |

マはある。計画を立て中間評価をし、良い物は続けていく、そぐわないものは捨てていくことがトライ&エラーをやっていけば素晴らしいと思う。例えば防災訓練ではなぜ話をしてはいけないのかの指導ができていない。しゃべりながら避難してしまうと指示が通らない。指示が通らなかつたらどうなると説明するとわかる。生徒のレベルは関係ない。意味を説明し指導する方も考えながらやっていかないといけない。身につけたい力、身につけさせたい力、力に焦点が当たっているが、学習指導要領の大元の文科省がそのような形に舵を切ったということ。知識先行ではなく、知識を生かす力に焦点を当てていこうということが、H30年に変わった学習指導要領の肝である。文科省も大学入試を変え、今はずいぶん変わってきている。総合型選抜、学校推薦などが50%を超えた。こういうことをやった方が良いという、身につけさせたい力を考えていただければありがたい。

- ・防災訓練は今年初めて小学校に参加。地域に小学校一つでは足りない。各エリアで努力をして避難所を確保していかないといけない。どこに物資がとどくか、どうやって確保していくかが大切。近くに大曲広場防災拠点があるが、鶴見区の方には物資は来ないのでとは聞いたことがある。本来そこに来ていただければ学校としてはいい立地にある。生徒がいるとき、いないとき様々なパターンがあるが、地域の訓練等にも参加して情報収集を常にしていれば。

#### <学校設置部会 キャリア支援部会>

##### ○協議テーマ

「個別教育計画書式変更(身につけたい力の明記)により教員の取組、授業づくり、展開等に変化が見られたか。キャリア・パスポート作成の評価、ねらいの達成と今後の方向性」

##### ○本校の取組について、中学部と高等部の様子について報告

###### ・中学部の様子

個別教育計画に明記することで生徒一人ひとりの「身につけたい力」を担任と授業担当者間で共有し、授業に反映する様子が見られた。キャリア・パスポートは学年ごとに実態に合った活用をしていて、学期ごとに振り返りをしている学年もある。

###### ・高等部の様子

「身につけたい力」を明記したことで教科のねらいが明確になっただけでなく、日常生活における生活面等の指導に共通認識を持って当たることができるようになった。半面、目先の「〇〇の力」とらわれて、将来に関する力や「生きる力」の関連性が見られないものもある。キャリア・パスポートについては、学期ごと、場面を限定した形で目標と振り返りに取り組んでいる。これらをふまえ、以下のような協議が行われた。

###### ・「身につけたい力」の設定は単年のものか、継続されるものか。

→現在は小学部、中学部、高等部での設定となっており、系統性については今後の課題となっている。

###### ・成果について、生徒とのやりとり等はできているのか。企業においてはそれが賞与につながってくる。

→生徒と教員の間で、サイクルができるとよい。

例えば、 **目標**→**達成**←**達成することが自分にとってどのようなプラスになるのか**ということがセットで考えさせることができればよい。そのためには、生徒とともに考える時間を持つことが大事。キャリア教育は目先のためではなく、将来に向けてという意識、「生徒のために」という視点を持って取り組むこと。

###### ・その他

委員の一人から「素晴らしく、そして大変な職であると感じている。また、キャリア・パスポートを見える形にし、継続していけるものにしてくれた。」「子どもたちには幸せになってもらいたい」という言葉をいただいた。

#### <学校設置部会 地域共同活動部会>

##### ○学校での地域とのつながりについての現状報告

・地域の方に木工のボランティアとして来校していただき、教員に木工に必要なスキルを教えていただいている。

・三ツ池公園の花の苗植えは、会議で知り合った方からの話で繋がった活動。

##### ○大曲広場での農園芸活動は、現在は取り組めていない(以前のような体制を組むことが難しくなっている。後援会としても整備に協力してきたので、できれば継続していただきたいと思っている。

・ゲストティーチャーとして外部講師を紹介することはできる。(サクソ奏者、ミュージ

カルに携わっている方)

- 働き方改革と言われて久しいが、子どもたちがやってきた活動を教員の働き方によってとぎれさせてしまうことが残念である。どのようにすれば継続していけるのかを考えて繋げていくことが大切である。
- 防災の観点から、分教室の休日の避難について、平日は高校と同様、災害時には地域ごとに下校することになっている。休日は分教室まで避難してくるのではなく、地域に避難することになっている。※高校は地域の拠点になっているはず。
  - ・備蓄食料は、防災教育での活用と共にフードバンクへの提供等も考えてはどうか。
  - ・マニュアル等は人で引き継いでいくのではなく、誰でもできてわかるシステム作りをしていくことが大切である。
  - ・今後予定しているラグビー選手との交流についても、双方にとって得るものがある交流にしていきたいと考えている。

#### ④本日のまとめ

(会長より)

- ・学校評価（中間評価）ということだった。最終的には数字で表すのは難しいが、できなかったらなぜできなかったのかの検証もお願いしたい。4年間の目標のまとめの年なので、4年間の目標についても検証してほしい。できていなければ次の4年間にもかかわってくる。できていれば別の視点から目標を考える。

(校長より)

- ・有用なご意見感想をいただいた。身につけたい力からや子どもたちの将来にどうつなげていくか、いろいろな視点でお話をいただいた。整理をし、職員と共有して次の4年間につなげていきたい。4年間のまとめと次の4年間について、意見を頂戴することもあるかもしれない。

#### ⑤事務連絡

- ・次回2月を予定している。9:45 くらいから行いたい。